

# 高齢者のエンゼルケアの標準化と教育コンテンツの開発

名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修

・キャリア形成支援センター

平川 仁 尚

## 目的・背景

終末期および死後においても、身だしなみを整えることで、高齢者本人及び家族のクオリティ・オブ・ライフに寄与する。死後の処置はエンゼルケア、死後の化粧はエンゼルメイクと呼ばれることが多く、看護師が主に担当している。しかし、看護師はエンゼルケア・メイクに関する体系的な教育を受けておらず、オン・ザ・ジョブ・トレーニングにより学ぶことが多い。エンゼルケア・メイクに関する具体的かつ標準的な方法論を確立し、看護師に示すことでその質の向上が期待される。また、高齢者介護施設や在宅における死が増えていくため、介護士や家族がエンゼルメイクに関わるが多くなる。高齢者のエンゼルケア・メイクの質を向上させるためには、前述の標準的な方法論を介護士や家族にも理解しやすいように教育の在り方も検討すべきである。本研究の目的は、整容・美容の専門職である理・美容師との協働で、高齢者のエンゼルケア・メイクの標準化を行うことである。同時に、看護師、介護士、家族に分かりやすい教育用資材を開発することである。

## 結果・考察

研究期間は、2009年12月から2010年11月末までであった。本研究は、名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター、愛知県を中心に長年に亘り高齢者の整容・美容に取り組んでいるNPO全国福祉理美容師養成協会、ならびに同朋大学社会福祉学部から構成されるワーキンググループにより実施された。ワーキンググループにおいて、次の4つの課題に並行して取り組んだ。

- 1) 高齢者のエンゼルケア・メイクの標準化を目的として、エンゼルケア・メイクに関わる全ての専門職を対象としたエンゼルケア・メイクに関する教育ガイドラインを作成した。
- 2) 老年医学および法医学に関する教科書をレビューし、整容・美容に関する高齢者の終末期および死直後の変化をまとめた。
- 3) 2) を基にワーキンググループにおいてエンゼルケア・メイクに関する概念図（4段階高齢者理美容ラダー）を作成した。

4) 専門家でなくても理解できるようにイラスト等を用いてエンゼルケア・メイクに関する教育コンテンツを開発し (<http://hirakawa-lab.org/>)、筆者が主催した名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター公認ワークショップで実際に用いた。この概念図は、エンゼルケア・メイクの準備は死後から始まるのではなく、自立の段階からその人らしい美しさを追求し続けた結果がエンゼルメイクへとつながることを表現している。つまり、エンゼルケア・メイクには、自立から死後まで一貫して、全身状態の変化に対応しながら、その人らしさを追求する姿勢が重要であることを示している。

本研究では、エンゼルメイクおよびエンゼルケアの標準化とその質の向上に資する教育資材の開発に取り組んだ。本研究の成果により、1) コスメトロジーが人々のクオリティ・オブ・ライフと関係が深いことを広く啓発できる、2) 医学・看護・福祉の分野へのコスメトロジーの応用可能性を高め、終末期のみならず高齢者生活全般の質の維持向上に資する、3) エンゼルメイクの必要性に関する認知度が高まり、高齢者に関わる様々な分野の専門職がコスメトロジーに参画することで、高齢者分野におけるコスメトロジーの学問的意義を向上させることなどが期待される。実際に、前述のワークショップはエンゼルメイクを主目的とした教育プログラムでなかったのも関わらず、参加者からエンゼルメイクについてもっと学習したいという要望が出され、高齢者の終末期ケアに関わる専門職の間でエンゼルメイクの学習ニーズがあることが示唆された。また、本研究の成果により医療・介護・福祉の専門職が協働してエンゼルメイク・ケアに関する教育ガイドラインを策定できたことは、この分野の教育活動の方向性を示すことにつながり、有意義であったと考える。今後は、この教育ガイドラインを含めて、本研究の成果の科学的検証が待たれる。